

地域資源活用部門

京田辺市の自然を活かしたまちづくり

京都府京田辺市田辺深田15 常務理事 ○山村武正
NPO 法人 やましる里山の会理事長 深田三郎
副理事長 播川司

1. 活動方針・目的

自然を大事にする仲間の輪を大きくする

2. 活動内容

休光電放棄田を復旧し自然を調査を行って、農業体験 炭焼き体験等里山体験を展開して、生態園を充実させ、地域の子どもたちの体験場とする。同時に過疎化高齢化する地域の農業団体やサークルと連携して街づくりを行う。

3. 他の活動団体の参考となる事例

炭焼き体験を通じ生産した竹炭を使って川の水質改善を行った。

オオムラサキの生育調査を 16 年間継続して一般公募して調査観察を行った。

地域の植物調査を行い、期初いう植物を多く発見した。ホタル野集いを開催し、里山音楽会を継続して開催している。

またカスミサンショウウオを発見し、京都府からその保全活動団体として移植指定を受けている。

木津川読本「木津川はどんな川？」を発行して、京都府京一句委員会山城教育局によって管内全小学校に 50 冊を分配した。

木津川堤防の植物を調査し、生育植物 917 種の標本を作製しその保存管理を行っている。

木津川での親と子の魚とり体験を開催し、川への関心を広めている。

活動をいち早く知らせるために毎週木良い鶴日に週刊ニュース発刊 550 号になる。

年間活動を会誌里山の自然 180 頁を年間 2 回発行し広く市民に理解の場を提供している

事務局会議を毎週水良い鶴日に開催して活動の推進力としている。

京都府の助成金申請や決算報告等助成金申請において書類を作成が大変である。民間企業での経験(現場作業員)にとっては苦痛そのものである。助成目的以外に支出があつて、減額処分されて大弱りとなった 臨時総会を開催し減額分を特別寄付を募り難局を乗り切らなければならなかった。

4. 今後の課題等

会員の高齢化に伴って、次世代引継ぎ人を育成すること 活動経費の確保のために会員 300 人へ到達したい。会費納入会員 210 人

会議レジメや申請書類、報告書の作成、記録の取り方などの処理と会計帳簿の記載処理と決算等のデスクワークが大変苦手である。定年退職された公務員の皆さんがご協力いただくと非常に有りがたい。

第10回 関西元気な地域づくり
京田辺市の自然を生かした
まちづくり

自然を大切に作る仲間を大きくする

やましろ里山の会
常務理事 山村武正

木津川に関して（1）親子魚とり



木津川に関して（２）親子魚とり



木津川に関して（２）七草摘みと七草粥



置



里山の会活動（2）

カヌーで大阪湾まで下る



笠置—大阪 カヌーでつなぐ

リバーツーリング交流会

「遊びカヌー発祥の地」の笠置町から大阪市北区までの木津川・淀川(約80km)をカヌーで下るリバーツーリング「第2回カヌーでつなぐ琵琶湖・淀川流域圏」(琵琶湖・淀川流域圏連携交流会主催)が19日、始まった。土曜、日曜を利用した3日間の日程で、初日は25艇が京田辺市までの約26kmを下った。

川面からゆっくりと街や山々を見渡し、「生命の源」の水を見つめなおそうと企画された。昨年は同じ区間で4日間の日程を組んだが、最終日が荒天で中止と

なった。今年は1日の移動距離を長くして1日短くした。

午前10時過ぎ、笠置町のカヌー広場前を出発。午後3時半ごろ、京田辺市の近鉄橋付付近に着いた。好天に恵まれ、カヌーに乗り込んだ参加者は青空や溪谷の緑、白い砂浜に目を輝かせていた。交流会の鈴木康久代表幹事は「抜群です。水がきれいだった」と感激していた。

川下りは、2日目の25日には大阪府枚方市の淀川河川公園まで、最終日の26日には大阪市北区の毛馬桜之宮公園にゴールする。

【南良靖雄】

輝く川面を下るカヌー—笠置町の木津川で



木津川に関して（6）

春の野草を食する会



○ レンリソウ 4



木津川に関して (4)

植物調査



木津川に関して (6)

調査観察を通じて発刊した資料





里山農園（3）

野菜栽培



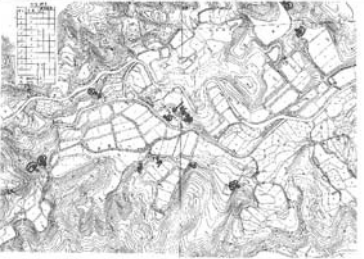
里山農園（４）田植え体験破竹のお土産



里山農園（５）稲刈り体験 御輿巡行



里山農園（7） オオムラサキ（国蝶）



オオムラサキ 身近に
 京田辺・普賢寺地域

「里山の会」生態園目指し広場整備

【京田辺市】京田辺市普賢寺地域の山間部、山頂付近に広がる里山。かつては、田舎の風景が残り、自然豊かな環境が保たれていた。しかし、近年は、里山の荒廃が進み、自然環境が失われつつある。そこで、地域住民らでつくる「里山の会」が、生態園を目指し、広場の整備に取り組んでいる。

里山の会は、2009年に設立された。当初は、里山の保全と、自然環境の整備を目的として活動していた。その後、里山の魅力を発信し、地域住民の関心を高めることを目指している。現在は、里山の魅力を発信し、地域住民の関心を高めることを目指している。また、里山の魅力を発信し、地域住民の関心を高めることを目指している。

里山の会は、2009年に設立された。当初は、里山の保全と、自然環境の整備を目的として活動していた。その後、里山の魅力を発信し、地域住民の関心を高めることを目指している。現在は、里山の魅力を発信し、地域住民の関心を高めることを目指している。また、里山の魅力を発信し、地域住民の関心を高めることを目指している。

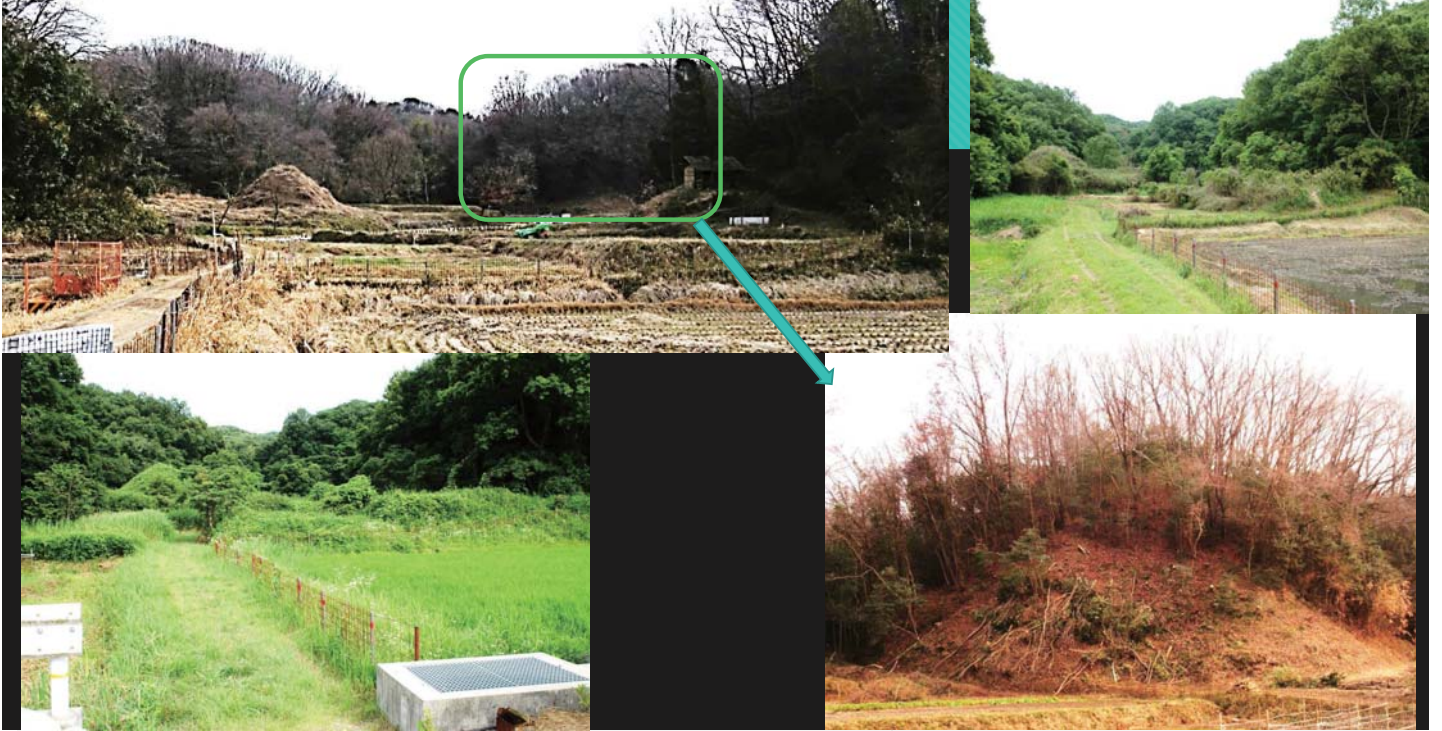


里山農園（8） カスミサンショウウオ カヤネズミの巣



里山農園（1）

放棄田の復旧と里山整備



里山農園（2）

炭焼きと里井やましる里山の会手入れ

